

- 日本社会の内なるグローバル化が進展し、少子化・人口減少が進む中、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する共生社会の実現が不可欠。
- 学校教育においては、多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育を実現することが喫緊の課題であるとともに、誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合い、他者のウェルビーイングを思いやることのできる教育環境を整備することが求められている。



3. 学校全体が多様性を包摂し、 多様性を強みにできるように

～子供たちが安心して過ごせる多文化共生（インクルーシブ）な学校づくり～



2. 子供たちを支える大人が子供たちの 可能性を引き出せるように



1. 全ての子供が豊かな可能性 を開花できるように

1. 全ての**子供**が豊かな可能性を開花できるように

- 就学機会の確実な確保、就学の促進
- 子供たちの様々な「力」を引き出しながら、一人一人の豊かな可能性を育む教育の実現
 - ・ 子供たちの「多様性」の把握・困り事や悩みに寄り添う姿勢・「長所・強み」を引き出す視点
 - ・ 子供たちの資質・能力を育むための、母語の力の活用も含めた日本語で学ぶ力の育成（デジタル技術の活用等）
 - ・ 在籍前の経験・学習歴の活用や学校外の日常生活等との接続
- 希望する進路・生き方を自ら選択できるためのキャリア教育・支援
- 幼小中高の学びの連続性、学び続ける生涯学習の視点



2. 子供たちを支える**大人**が子供たちの可能性を引き出せるように

- 各地域の実情を踏まえた子供たちの受け入れ・支援体制の整備
- 各専門分野の知見の活用、外国人児童生徒等教育の専門性の向上
- 校内の連携・共通理解の醸成（教師と日本語指導補助者・母語支援員等との連携等）
- 家庭・地域・関係機関との連携



3. **学校全体**が多様性を包摂し、多様性を強みにできるように

～子供たちが安心して過ごせる多文化共生（インクルーシブ）な学校づくり～

- 子供たちが共に学び合える環境づくり
 - ・ 異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる推進（国際理解教育の推進等）
- 多様性をポジティブに捉え、日本と世界の架け橋となるグローバル人材育成の視点
- 外国人児童生徒等教育で培われた知見と他の児童生徒への教育で培われた知見の相互の応用

